

2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月13日

上場会社名 五洋インテックス株式会社
 コード番号 7519 URL <http://www.goyointex.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮原 雄一
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 梅野 拓実
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 0568-76-1050

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	909	14.3	214		219		159	
2019年3月期第3四半期	1,061	17.8	172		168		214	

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 165百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 217百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	15.80	
2019年3月期第3四半期	21.20	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	873	524	60.0
2019年3月期	1,310	688	52.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 524百万円 2019年3月期 688百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		0.00	0.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,265	17.4	230		230		175		17.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1 社 (社名) 五洋亜細亜株式会社、除外 1 社 (社名) 株式会社キュアリサーチ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	10,101,585 株	2019年3月期	10,101,585 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	3,595 株	2019年3月期	3,410 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	10,098,020 株	2019年3月期3Q	10,098,970 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2018年10月1日付けで普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。また、2019年7月1日付けで普通株式1株につき普通株式5株の割合で株式分割を行っております。2019年3月期の期首に当該株式併合及び株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純損失、期末発行済株式数(自己株式を含む)、期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)を算定しております

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては、米国を中心とした貿易摩擦の強まりが懸念され、世界経済は低迷しました。我が国の経済も楽観できず、10月の消費税増税の駆け込み需要の反動や自然災害により、景気回復に影響が出ています。このような状況のもと、当社グループを取り巻く事業環境は、室内装飾品関連（カーテン等）市場に影響を及ぼします新設住宅着工総戸数が減少している状態にあります。

売上高は、室内装飾品関連では主に建設が減少しているマンションの業者への販売が振るわず減少となり、メディカル関連では2019年8月から五洋亜細亜株式会社（旧MNC株式会社）が本格的にメディカルツーリズムサービスを開始し、順調に業容を拡大させておりますが、全体では、前年同四半期の売上高には及ばず、大幅な減少となりました。

以上の結果、売上高は前年同四半期比14.3%減の909百万円、営業損失は214百万円（前年同四半期は172百万円の営業損失）、経常損失は219百万円（前年同四半期は168百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は159百万円（前年同四半期は214百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

第4四半期以降におきましては、メインブランドの一つであります「インハウス」見本帳の大幅改訂の着手、メディカル関連におきましては、関係事業者との連携強化によりメディカルツーリズムサービスのさらなる拡大を目指してまいります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(室内装飾品関連)

売上高は、建設が減少しているマンションの業者への販売が振るわず減少いたしました。

以上の結果、売上高は前年同四半期比6.9%減の900百万円、営業損失は210百万円（前年同四半期は151百万円の営業損失）となりました。

(メディカル関連)

売上高は、五洋亜細亜株式会社が8月から稼働しましたが、株式会社キュアリサーチが連結子会社から除外された影響で減少しました。

以上の結果、売上高は前年同四半期比91.2%減の8百万円、営業損失は4百万円（前年同四半期は21百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ0百万円減少して728百万円となりました。これは、その他流動資産(未収入金等)が91百万円増加、商品が27百万円増加、現金及び預金が22百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が134百万円減少したことなどによります。固定資産は、436百万円減少して145百万円となりました。これは、不動産の流動化のための固定資産譲渡により建物及び構築物(純額)が130百万円減少、土地が289百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ436百万円減少し、873百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ170百万円減少して284百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が68百万円、支払手形及び買掛金が66百万円、その他(未払金等)が37百万円減少したことなどによります。固定負債は、101百万円減少して64百万円となりました。これは、長期借入金92百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ272百万円減少し、349百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ164百万円減少して524百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失が159百万円になったことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、本日開示資料「2020年3月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	167,047	190,044
受取手形及び売掛金	281,304	146,700
商品	242,580	270,291
仕掛品	7,452	-
原材料及び貯蔵品	5,241	9,382
1年内回収予定の長期貸付金	378	-
未収消費税等	6,002	-
その他	20,319	112,159
貸倒引当金	△2,153	△483
流動資産合計	728,171	728,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	140,631	10,301
機械装置及び運搬具(純額)	-	2,011
土地	289,500	-
リース資産(純額)	9,423	8,002
その他(純額)	8,806	3,068
有形固定資産合計	448,361	23,383
無形固定資産		
商標権	88	65
ソフトウェア	20,085	3,686
のれん	-	1,145
その他	-	720
無形固定資産合計	20,174	5,617
投資その他の資産		
投資有価証券	22,780	-
破産更生債権等	120,269	102,450
差入保証金	87,320	116,372
その他	3,209	104
貸倒引当金	△120,269	△102,637
投資その他の資産合計	113,309	116,289
固定資産合計	581,845	145,290
資産合計	1,310,017	873,385

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	145,993	79,682
短期借入金	90,000	88,000
1年内返済予定の長期借入金	79,606	11,219
リース債務	2,285	2,199
未払法人税等	14,728	8,406
未払消費税等	5,185	17,081
賞与引当金	13,350	11,550
その他	104,147	66,511
流動負債合計	455,296	284,650
固定負債		
長期借入金	93,867	1,550
リース債務	7,091	5,463
繰延税金負債	2,232	-
退職給付に係る負債	45,195	42,793
役員退職慰労引当金	5,324	-
資産除去債務	12,331	14,636
固定負債合計	166,043	64,443
負債合計	621,340	349,093
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,384,509	1,384,509
資本剰余金	697,805	699,277
利益剰余金	△1,397,465	△1,557,602
自己株式	△1,695	△1,893
株主資本合計	683,154	524,291
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,522	-
その他の包括利益累計額合計	5,522	-
純資産合計	688,677	524,291
負債純資産合計	1,310,017	873,385

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	1,061,297	909,140
売上原価	502,755	462,828
売上総利益	558,541	446,311
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	242,661	199,583
賞与	3,538	-
賞与引当金繰入額	16,069	10,452
貸倒引当金繰入額	△466	△1,621
退職給付費用	5,631	5,567
業務委託費	37,827	72,847
賃借料	64,475	104,327
減価償却費	21,990	△13
のれん償却額	-	229
その他	339,213	269,851
販売費及び一般管理費合計	730,940	661,222
営業損失(△)	△172,399	△214,910
営業外収益		
受取配当金	772	842
為替差益	887	1,487
貸倒引当金戻入額	807	-
その他	8,534	3,036
営業外収益合計	11,002	5,366
営業外費用		
支払利息	3,542	3,847
売上割引	611	428
その他	3,350	5,502
営業外費用合計	7,504	9,778
経常損失(△)	△168,901	△219,322
特別利益		
固定資産売却益	-	23,587
子会社株式売却益	-	59,974
投資有価証券売却益	-	7,482
特別利益合計	-	91,045
特別損失		
固定資産除却損	774	-
貸倒引当金繰入額	-	23,298
過年度決算訂正関連費用	36,995	-
特別損失合計	37,770	23,298
税金等調整前四半期純損失(△)	△206,672	△151,575
法人税、住民税及び事業税	7,383	8,066
法人税等合計	7,383	8,066
四半期純損失(△)	△214,056	△159,642
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△214,056	△159,642

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失(△)	△214,056	△159,642
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,326	△5,522
その他の包括利益合計	△3,326	△5,522
四半期包括利益	△217,382	△165,165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△217,382	△165,165
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度までの5連結会計年度に引き続き、当第3四半期連結累計期間においても継続的に営業損失を計上するとともに重要な営業損失を計上しました。また、金融機関からの新たな資金調達が困難な状況にあります。これらにより当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善するために以下の対応策を継続して実施しております。

室内装飾品関連は、①経営陣の刷新に伴うトップセールスによる新規顧客の開拓、②積極的なマーケティング及びデジタルマーケティングによる既存顧客の取引額のアップ、③パートナー（代理店）戦略の強化、④営業手法において顧客関係性マネジメント（CRM）の徹底及び営業支援システム（SFA）の導入により業務効率化。また、⑤メインブランド「サザンクロス」見本帳の大幅改訂により、一定の売上高は確保致しました。また、第4半期以降におきましては、「インハウス」見本帳の改訂に着手し、販売強化を実施して売上高の増加を図ります。メディカル関連におきましては、2019年7月に完全子会社化した五洋亜細亜株式会社（旧MNC株式会社）にてメディカルツーリズムサービス等を実施し、かつ、業務改善を行うことでコスト削減を図り、収益拡大を目指してまいります。

また、資金面におきましては様々な方策での資金調達を検討し、安定的な財務基盤の確立を図ってまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあることから、現時点においては、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	室内装飾品 関連	メディカル 関連	計	
売上高				
外部顧客への売上高	968,061	93,235	1,061,297	1,061,297
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	968,061	93,235	1,061,297	1,061,297
セグメント損失(△)	△151,132	△21,267	△172,399	△172,399

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	室内装飾品 関連	メディカル 関連	計	
売上高				
外部顧客への売上高	900,931	8,208	909,140	909,140
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	900,931	8,208	909,140	909,140
セグメント損失(△)	△210,061	△4,848	△214,910	△214,910

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度までの5連結会計年度に引き続き、当第3四半期連結累計期間においても継続的に営業損失を計上するとともに重要な営業損失を計上しました。また、金融機関からの新たな資金調達が困難な状況にあります。

これらにより当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在していません。

当該状況を解消又は改善するための対応策については、「注記事項 継続企業の前提に関する注記」に記載しておりますが、これらの対応策は実施途上にあることから、現時点においては、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。